

企画活動名	アレルギー対応子ども食堂スマイルシード
フリガナ	ササバタ ミサコ
申請者（代表者）氏名	笹畑 美佐子
団体名（正式名称）	団体名 : スマイルシード 役職・肩書など: 代表

1. 活動結果要約

本食堂は、食物アレルギー児とその家族が安心してみんなと一緒に同じ食事が出来るようにと、滋賀、京都、大阪の小児アレルギー専門医療スタッフが中心となって立ち上げたものです。医療スタッフが企画する食物アレルギー対応の子ども食堂は全国で初めての試みです。

今回は食物アレルギーがある子もない子と一緒に食事を楽しみ、管理栄養士の長谷川実穂先生をお招きして子どもにも分かる食物アレルギーのお話を、優しさ溢れる語り口でして頂きました。メニューはチキンカレー、キャベツとコーンとハムのコールスロー、白玉フルーツアガーでした。「アレルギーフリーのカレーがこんなにおいしいとは思わなかった。普通のカレーと同じですね」という非アレルギー児保護者の言葉が嬉しかったと話されたアレルギー児保護者もいました。午後からは大阪府狭山市の親の会（smile smile）が作成した希望ノートを使用して長谷川先生が子どもたちに夢ややりたいことを聴きながら、食物アレルギーについて詳しい説明と本人や周りの友達ができることや心構えを丁寧にお話してくださいました。後半は保護者向けに日ごろの注意点や食品表示の見方を解説してくださいました。交流会では保護者の悩みや不安を的確に受け止めて専門的な助言をしてくださり「大変参考になった」、「もっとお話を聞きたかった」などの感想が寄せられました。

2. 活動目的

目的は、食物アレルギー児とその家族がアレルギーの不安から解放され、のびのびと食事を楽しみ、不安や悩みを共有して家族同士のネットワークが作れる環境を提供すること、交流会で最新の医療情報、栄養相談、新商品と外食に関する情報交換を行い、お互いが有意義な時間を過ごし参加した誰もが笑顔になって帰ることを目的としました。

本活動を通じて、食物アレルギーがあってもなくても一緒に美味しく食べられる食品があること、食物アレルギーという疾患について理解し、周りの人ができることを少し明確に整理して頂けたと思います。食物アレルギー同士のネットワークも大事ですが、将来的には食物アレルギーの有無に関係なくいつでも、誰もが、どこでも、安心して食事ができることを期待します。

3. 活動方法

今回は第 10 回特別企画としてお友達を誘って楽しくお食事をして、食物アレルギーを知らない人にも関心を持っていただきたい思いを込めて企画にしました。そのため参加費は無料としました。お正月で友人を誘えない期間を考慮して申請時期を大幅に伸ばし、これまで通り単独の参加も受け入れたので総勢 89 名になりましたが、当日は残念ながらインフルエンザに罹患された方のキャンセルが相次ぎ、実際には 67 名となりました。

お料理は短時間で上手に出来上がりました。これまでの経験をもとに調理工程を詳しく記載したことと、班ごとに決められた調理器具を自分たちで洗い使い片づけることにしました。そのため調理開始前に班ごとに誰が何をどこを担当するのか話し合い、人の動きを確認できたのでスムーズに調理を行うことができたと考えます。

参加者には前日に当日の流れや注意点、持ち物の確認などメール連絡したため、受付が混乱することなく開催できました。

食事中動き回る子もなく集中して食事を楽しみ、お代わりをする子も多くこれまでで一番残飯が少なかったです。

食後は大人気の管理栄養士の長谷川実穂先生のお話でしたが、大変ご多忙のため、事前の打ち合わせが十分にできず急遽前泊していただきスタッフ 5 名と前夜お打ち合わせを行いました。短時間

の調整でしたが、長谷川先生の優しく分かりやすいお話は大変好評でした。

4. 結果及び波及効果

今回の企画で食物アレルギーではない家族から、「普段食べているカレーと変わらないし、どれも美味しかった」、「食物アレルギーという言葉は聞いたことがあるが、どのように具体的に支援できるのか知らなかった。今回来てみてもっと食物アレルギーについて知りたいと思うようになった」など感想が寄せられました。また、食物アレルギーの保護者からは、長谷川先生のお話を聞いて「自分が知りたかったことが分かった。涙が出そうでした。多分癒されたんだと思います。」などお話の内容について大変好評でした。食物アレルギーがあってもなくても一緒に食べられる食品があること、アレルゲンフリー商品が開発されている状況を知る機会にもなったと考えます。アレルゲンフリーとなると治療食の一部ととらえる人もおり、一般人は購入してはいけないものとする方もおり、今後は食物アレルギー児のみに限定することなく一般の人にも来て頂き同じようにおいしいものであることを理解してもらい試みも必要であると考えます。

その他、当日は読売新聞社（大津支局、大阪支局）の取材があり、2月3日（日）に「アレルギー対応食 一緒に守山で子ども食堂」との記事が掲載されました。また、2月8日（金）25時台のNHK ラジオ番組「ラジオ深夜便」でスマイルシードの活動が紹介されました。12月のクリスマス会の様子、スタッフのインタビュー、参加者のインタビュー、などで構成されていました。NHK ラジオ第一放送、NHK-FM、NHK 国際、で同時放送。番組HPからは聞き逃しサービス2月11日から1週間オンデマンドで聴取できました。更に、看護協会出版会の「看護」3月臨時増刊号に【報告①】先駆的・特徴的な取り組みとして多職種協働による「食物アレルギー対応子ども食堂」の記事を掲載頂きました（別紙参照）。当食堂の存在を知らせる機会にもなりました。

5. 今後の活動について

今後も継続してアレルギー児もそうでない児も安心して食事が出来る場を提供し、参加者同士のネットワークづくりの支援を行う予定です。また、子ども向け、保護者向け、企業向けなどアレルギーへの正しい知識と緊急時対応の仕方、災害時の対応などについて講演し啓発普及に力を入れて

いきたいと考えています。

その一方で、この1年の振り返りをし、多くの失敗や反省すべき点をスタッフ全員で洗い出し、今後の活動を誰が、どの程度、責任をもって活動していこうと思っているかなど考えを聞き、継続するためのチーム固めも必要と考えています。専門家揃いの当食堂は年に1度は管理栄養士から衛生管理、医師から子どもの病気について、看護師から緊急時の連絡方法と対処法、学校講師から危機管理なども講義をして頂き、アレルギーフリー食の試食をしながら全員で知識とスキルと商品の情報交換ができるように学習をしたいと考えています。

多くのメディアに取り上げて頂くことで社会が食物アレルギーについて理解を深め支援の輪が広がることで、食物アレルギーがある子もない子も普通に一緒に食事できることが当たり前になる日が来ることを期待します。

以上